

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金

事業報告 第7号 (2009年度)

(1) 学用品支援事業…就学生へ文具品の寄与

今年度も年間に必要な文具品を就学生 303 名全員に寄与できました (表 1)。おかげさまで新たに 9 学年クラスが始まり、その生徒数は 45 名もいます。特筆すべき点は、8 学年クラスに男子生徒の 2 倍近い人数の女子生徒が進級したことです。

<就学生 1 人に寄与する文具>

鉛筆、消しゴム、ノート各種、ボールペン及び換芯、万年筆及びインク

表1 文具品を寄与したバル・ピパル学校就学生

学年	幼稚園	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
女	7	6	11	9	16	24	18	14	29	15	149
男	3	9	13	11	15	13	19	25	16	30	154
計	10	15	24	20	31	37	37	39	45	45	303

<対象者の条件>

- A. サッレ村在住の就学生、またはサッレ村内の学校に通学している他の村の就学生であること。
- B. 進級試験の合格者の場合、学校の出席率が月 80%以上 (塾は月 90%以上)、不合格者の場合は、出席率が月 90%以上 (塾は月 100%) であること。
- C. 毎年、各学年の開始時に奨学品希望の申請書を提出すること。

(2) 奨学資金支援事業…奨学生の決定及び文具品寄与

今年度は、7つの学校から優秀な奨学生 199 名が決まり、奨学金が寄与されました (表 2)。

昨年 5 月に行われた奨学品の授与式には、例年通りサッレ村のバル・ピパル奨学財団が各学校に招待状を送り、村々から奨学生達、代表教師 1 人と父母がサッレ村に集まりました。

式典では、文具品が各自に寄与され、儀式として額、頭、頬、肩にはお祝いの赤い粉が付けられました。また、校長、奨学財団代表者、生徒がそれぞれスピーチを行いました。

この恒例の式典は、学生達が踊りも披露しお祭りのように祝いました。

<対象者の条件>

- A. サッレ村とその近隣の村に通う就学生であること。
- B. 毎年 4 月に行われる進級試験の成績順上位 4 名であること (バル・ピパル学校は上位 10 名が対象)。
- C. 毎年 1 月と 9 月に行われる中間試験の成績順上位 10 名であること (バル・ピパル学校のみ対象)。
- D. 年末試験の奨学品受理後 1 ヶ月以内に、好きな小論文を提出すること。

表2 優秀な奨学生

村名	学校名	学年	人数
サッレ	バル・ピパル学校	幼稚園～8	90
トドケ	バゲソーリ学校	1～3	12
ダダ	パンチャ・カンニャ学校	1～5	20
ラマスタン	ラマスタン学校	1～8	32
ヴォルレ	マナルピ学校	1～8	32
ボシ	シャンカ・デヴィ学校	1～10	1
バンカルカ	カリカ学校	1～3	12
	合計		199

表3 奨学文具設定金額 (条件B用)

学年	1位	2位	3位	4位	合計	
1	100	80	60	50	290	
2	200	160	120	100	580	
3	300	240	180	150	870	
4	400	320	240	200	1,160	
5	500	400	300	250	1,450	
6	600	480	360	300	1,740	
7	700	560	420	350	2,030	
8	800	640	480	400	2,320	
9	900	720	540	450	2,610	
10	1,000	800	600	500	2,900	
1Rs=約1.2円					年間	15,950

表4 奨学文具設定金額 (条件C用)

学年	1位	2位	3位	4位	合計	
1～8	25	20	15	10	70	
1Rs=約1.2円					年間	840

寄与文具品の金額設定は表3及び表4の通りです。条件Cの上位5～10位の該当生徒の金額設定につきましては、現地の委員会と話し合った上で決定します。条件Cによって、できるだけ多くの生徒が勉学に励むように支援したいと考えています。



(奨学品を準備する教師達)



(奨学品を受け取る生徒)



(スピーチする生徒)

(3) 識字率向上支援事業…脱穀機導入の成果

村人達のためにサッレ村に脱穀機を導入した目的は、夜間クラスで学ぶ成人の出席率向上でした。その後、夜間クラスで学んだ成人達の殆どが読み書きを覚え通学者はいなくなり、今は夜間クラスは開講していません。しかし今後勉強したい成人達のために、将来図書館が設立された折にそこで夜間クラスを再開する予定です。

現在でも、脱穀機利用によって児童達の勉強する時間が増え、出席率向上や家事労働負担の軽減などに役立っています。

(4) 広報活動 ①…「フィリピンの友を援ける会」による教育ご支援

今年度も、「フィリピンの友を援ける会」に、バル・ピパル学校1～5学年の教師の給与、塾の運営費用、生徒の給食・制服・靴などの費用をご支援いただいております。また、寄付金によって学校が利用する目的で購入した土地に、脱穀機の施設、中学と高校の校舎や運動場などを建設することができました。

サッレ村のバル・ピパル学校の建設・運営活動の始まりは、10年前に監事のリジャルが「フィリピンの友を援ける会」代表、石田和子氏と出会ったことがきっかけでした。当時、サッレ村に小学校を作ることがリジャルの願いでした。「フィリピンの友を援ける会」は千葉県に登録されたボランティア団体で、フィリピンの学校、病院、職業訓練学校などを支援しています。長年この会では、北海道のジャガイモを販売し、その収益金でフィリピンの支援活動を行っていました。近年は寄付金のみで支援されています。

村の教育問題点について石田氏に話したところ、フィリピンの友を援ける会は、ジャガイモ販売の収益金や会に寄せられた寄付金で、サッレ村の小学校建設援助をしてくれることになりました。この寄付金で村に念願の小学校が建ち、バル・ピパル小学校と名付けられました。さらに、学校で給食、制服、靴を無料支給するアイデアを提案して下さいました。制服と靴は村の仕立屋に注文をすることで、彼らに現金収入の機会を与えることができました。

会からは、これまでに合計約550万円以上のご支援をいただき、お陰様でバル・ピパル学校を9年間無事に運営することができました。フィリピンの友を援ける会には、たいへん感謝しております。

広報活動 ②…「特定非営利活動法人ブッダ基金」による教育ご支援

ブッダ基金の事業内容の一つ「ネパール山村地域に住む人々への識字教育援助」として、引き続きサッレ村のバル・ピパル学校6～10学年(中高等部)の建設と教育支援をしていただいております。ご援助により、9学年クラスを増設し、男性教師 Rajan Karkee (英語担当)、男性教師 Bikendra Shrestha (国語担当) 男性教師 Saroj Parajuli (物理担当) と男性教師 Rajendra Rijal (数学担当) を雇用できました。

6年生は37名、7年生は39名、8年生は45名、9年生は45名が学んでいます。9年生の増設によって、サッレ村や高校が無い近隣の村の生徒達は、遠くのボシ村シャンカ・デヴィ学校へまで通学しなくてもよいので、負担が非常に減りました。ブッダ基金の皆様には、いつも感謝しております。

詳細な活動につきましては、ブッダ基金のホームページでご覧になれます。<http://www.buddha-f.com/>

広報活動 ③…「サロン・ド・アサミ (Salon de Asami)」による教育ご支援

2009年度内で、京都中ロータリー・クラブの皆様による教師雇用支援の期限が終了し、その後の教師の給与について思案していたところ、「サロン・ド・アサミ」代表者の石井氏が募金箱を設置し、サロンをご利用される方々に寄付を募って下さいました。

「サロン・ド・アサミ」は、音楽や講演など様々な文化活動を行う交流の場です。今後はこの募金によって、初等部（1～5学年）の女性教師 Kanchhi Maya Gurung の給与支援を行うことになりました。誠に有難うございます。

京都中ロータリー・クラブの皆様にはこれまでたいへんお世話になり、有難うございました。皆様のご支援で教師を雇用し、おかげさまで初めて幼稚園児の指導を開始することができました。



(授業中の教師Kanchhi Maya Gurung)

広報活動 ④…「財団法人アジア 21 世紀奨学財団」主催のコラムコンテストに投稿

今年、アジア 21 世紀財団は、Global Voices from Japan 「外国人の見る日本」というテーマで、日本への留学生または留学経験者を対象にしたコラムを公募しました。監事のリジャルも「ネパールの山村の教育改善を望んで」というコラムを投稿して当法人の活動を紹介させていただきました。

残念ながら、コンテストには入賞しませんでした。投稿したコラムがこちらのホームページに掲載されています。<http://glovoicesjp.com/>

また、アジア 21 世紀奨学財団の下記ホームページで当法人の活動を紹介して下さっています。

<http://www.nipponrentacar.co.jp/asia21/international.html>

広報活動 ⑤…「サロン・ド・アサミ (Salon de Asami)」にて講演会

今年 4 月 24 日に、横浜市の「サロン・ド・アサミ」で 2 度目の講演会を行いました。会には、22 名の方々がご参加下さり、法人活動内容の他に、リジャルの大学での研究内容や今年 3 月にネパールで調査したゴミ・下水処理の問題について、スライドで講演しました。

今回も、京都中ロータリー・クラブの皆様が作成して下さいました活動紹介パネル 3 枚を展示しました。この講演会の開催の準備と運営では、石井氏や友人の皆様にご大変お世話になりました。参加費はご寄付としていただき、初等部の女性教師の給与支援として使わせていただきます。本当に有難うございました。

広報活動 ⑥…「オフィス 21 (OFFICE 21)」にて講演会

昨年 4 月 27 日、東京・五反田にて「オフィス 21」の第 90 回月例会で講演を行いました。「サロン・ド・アサミ」代表者の石井氏が、「オフィス 21」会員の加藤氏をご紹介下さった縁でした。

「オフィス 21」は、毎月異なった講演者が招待され、様々なテーマで講演会と勉強会が行われる社会人クラブです。リジャルはネパールについての話や当法人の活動を、スライドを利用して講演しました。いただいた講演料はご寄付としていただきました。

講演の機会をくださった加藤氏には、ここに改めてお礼申し上げます。

広報活動 ⑦…音楽教育支援

フルート奏者・故石井朝美氏のご遺族によるご支援で、バル・ピパル学校の生徒達が音楽に親しめるような活動ができるように、2009年2月より10年間に亘って定期的にご寄付をいただいています。

この寄付金で音楽教師を雇用し、これまではなかった音楽の授業を始めることにしました。教師は、普段は仕立て屋の仕事に就き、祭りや祝い事には音楽を演奏する「ダマイ」というカーストの民族から音楽教師を雇用することになりました。しかし、「演奏だけでなく音楽の歴史も子供達に教えてもらいたいのので、基礎教育を受けた人材が良い」と、対象を絞ることになり、予想よりも時間がかかりました。

サッレ村にはダマイが住んでおらず、周辺の村のダマイ達の中から候補を探しました。どのダマイも音楽が演奏できますが、基礎教育を受けた人はだれもいません。

さらに遠くの村を探し、2009年8月に Raj Kumar Prayal という男性に決まりました。彼は専攻で学んだ英語科目も学校で教えることになりました。自宅からは歩いて6時間かかるので、サッレ村に部屋を借りて住むことになりました。

彼は、ダマイがネパールの伝統音楽の演奏を伝承していることを誇りに思い、音楽教師の仕事に就いたことをとても喜んでいます。



(Raj Kumar Prayal)

(5) 図書館設立支援事業…第7期 設立準備金の積立継続

今年度で、サッレ村に図書館を設立するための準備金の積立金が70万円になりました。日本国内で毎年10万円を10年間積立て、合計100万円を目指します。この準備金には図書館の建物の建設費、机やイスなどの設備費、書籍費が含まれます。

(6) 寄付金収入及び正会員数

皆様のお陰で今年度もご寄付が集まりました。今年度の正会員は17名です。定期的に毎年ご寄付して下さる方々、新たに初めてご寄付して下さった方々、皆様に感謝しております。

(7) その他のサッレ村の動き

** カトマンズでダンス披露 **

昨年12月に石井氏とご友人がネパールを訪れた際に、村の音楽と踊りを観ていただきました。約25名の村人達がカトマンズに来てホテルの庭を借り、踊りと演奏を披露しました。生徒達が歌・演奏・踊りを行い、ダマイも Panche Baja を演奏しました。おふたりとも大変楽しまれたそうです。

またこの際、石井氏と「サロン・ド・アサミ」がご支援する2人の教師、Raj Kumar Prayal と Kanchhi Maya Gurung に面会する機会も設けることができました。



(民族楽器を演奏するダマイ達)



(踊りを披露する生徒達)

** 祭りの開催 **

ネパールでは昨年8月にティージという女性のための祭日があります。既婚女性が実家に里帰りをし、家事や畑仕事を忘れて歌ったり踊ったりします。

サッレ村では、現地のバル・ピパル奨学財団主催でこの日を祭りで祝いました。村人達は祭りの仮面を被り、Panche Baja という音楽に合わせて踊りました。祭りは、村人の数少ない娯楽の一つであり、伝統文化を継承するためには最適な行事です。サッレ村周辺では、ティージの日にこのように踊る祭りをを行う村は年々減っています。今回も他の村から大勢の人々が参加しました。奨学財団が踊りに必要な仮面や衣装などを支給し、演奏者のダマイ達には謝礼金を払いました。

この祭りは村人に好評なので、次回も開催が予定されています。



(祭りに参加する村人達)



(仮面を被って踊る村人)



(棒を叩いて踊る人々)

** ガリ版印刷機の活用 **

以前、「京都中ロータリー・クラブ」の皆様が寄贈して下さいました5台のガリ版印刷機が、学校で大活躍しています。教師が保護者宛てに届ける通知書に利用されています。

** 教材の支援 **

昨年末より、「サロン・ド・アサミ (Salon de Asami)」、「京都中ロータリー・クラブ」、リジャルと調査を行った東京大学のメンバーの方々からネパールを訪れた際に、様々な教材（顕微鏡、望遠鏡、磁石、方位磁石、温度計、地球儀、たて笛、ハーモニカ、絵の具、絵筆、縄跳び、ボールなど）を持参して下さいました。

教材があると実践的な勉強に役立つため、生徒も教師も大変喜んでいきます。教材をさらに充実させたいと思っておりますので、ネパールに行かれる時に持って行って下さると大変助かります。教材は中古でも大丈夫ですので、宜しくお願い致します。

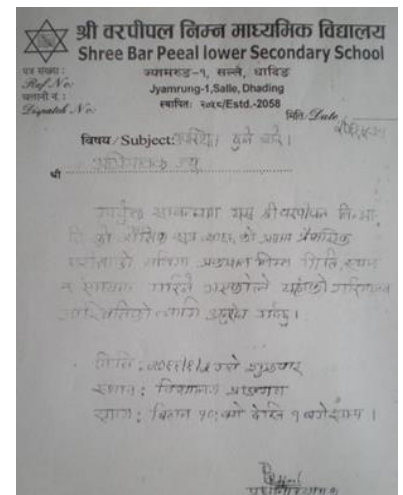
** 道路建設 **

「京都中ロータリー・クラブ」がサッレ村に道路建設支援を行って下さり、とうとう昨年末に5年間の道路建設事業が完了しました。

今年2月には、「京都中ロータリー・クラブ」の方々から道路建設の確認のために現地訪問し、事業完成式典にも参加されました。

舗装されていない砂利の道路のため、雨季になると崩れる場合があるので、これからも補修や管理に費用がかかりますが、当面はご支援金の残金から使わせていただきたいと思います。

この道路は、バス、ジープ、バイクなどが通り、重病者の搬送にも助かっています。本当に有難うございました。



(ガリ版の通知書)



(日本から持参の教材)

**** 養鶏事業 ****

前年度に続き村の養鶏事業は進んでおりますが、現在も資金が十分でないため、大きな発展はしていません。この事業が軌道に乗って成功し、もっと規模が大きくなれば、村の現金収入となり学校運営資金の手助けにもなると期待しています。

= 訃報 =

今年2月17日に、バル・ピパル学校で数学を教えていた教師のラジェンドラ・リジャル(Rajendra Rijal)が、結核のため35歳の若さで他界しました。妻と4人の娘が残されてしまいました。突然の死で家族・村人・生徒・知人が悲しんでいます。

現代では治療可能な病気ですが、一般の病院で風邪と診断され発見が遅れてしまい、取り返しが付かない結果となってしまいました。ネパールでも、結核専門の病院で検査しておけば、完治していたかもしれないと思うと、非常に悔しく残念です。

ラジェンドラ氏は、日本で3年間養鶏の研修を経験し、日本語や日本のことをよく理解していました。村と日本の架け橋になりながら、村づくりに貢献していました。その志は、養鶏場での研修時代に2006年の「外国人研修生・技能実習生日本語作文コンクール」に入賞した作文から伝わってきます。

氏のこれまでの尽力に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

～ ご支援のお願い ～

2009年の春から、バル・ピパル学校は9学年(高等部)が始まり、支援生徒数が303名になりました(表1参照)。皆様のご支援を、誠に感謝しております。これまでの成果が国の行政に認められ、行政から一部の教師の給料が支給されるようになりました。

2010年の春からは、10学年の教育が始まり、生徒数も約50名増える見込みです。今後も実績を積み、将来は村で自立して学校運営ができるように支援して行きたいと考えています。

これからも支援事業を続けていくために、どうぞ引き続き皆様のご寄付とご協力を宜しくお願い致します。

<お振込先>

郵便振替口座：00930-4-265848

口座名称：特定非営利法人 バル・ピパル奨学基金

<ご連絡先>

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金

ホームページ・アドレス：<http://barpeepal.com>



(授業中のラジェンドラ氏)

第7期事業収支計算書
(2009年1月1日～12月31日)

(単位:円)	
科目	決算額
I. 収入の部	
1. 入会金・会費収入	
正会員入会金収入	10,000
正会員会費収入	160,000
2. 寄付金収入	
寄付収入	896,955
3. その他収入	
利息収入	440
当期収入合計(A)	1,067,395
設立時資金有高	414,422
収入合計(B)	1,481,817
II. 支出の部	
1. 事業費	
① 広報活動事業	255,470
② 学用品支援事業	80,100
③ 奨学資金支援事業	47,950
④ 識字率向上支援事業	202,980
⑤ 書籍購入支援事業	38,500
⑥ 図書館設立支援事業	100,000
2. 管理費	
通信費	4,020
印刷費	0
消耗品費	4,981
雑費	9,320
振替手数料	4,730
交通費	920
3. 予備費	0
当期支出合計(C)	748,971
当期収支差額(B)-(C)	732,846
次期繰越収支差額	732,846

外国人研修生・技能実習生日本語作文コンクールに入賞した作文

「家ぞくと村づくりと志」 ラジェンドラ・リジャル

(全国農業新聞 2006年10月13日)

日本の養鶏技術をネパールに広めたい



表彰式に臨むリジャルさん(4日)

国際研修協力機構(J-INTCO)がこのほど行った「外国人研修生・技能実習生日本語作文コンクール」で、千葉県旭市の園大松農場(大松秀雄代表)で養鶏を勉強し

外国人研修生・技能実習生日本語作文コンクール 優良賞 ラジェンドラ・リジャルさん

ているネパール出身のラジェンドラ・リジャルさん(31)が優良賞を受賞した。リジャルさんの作文からは、母国を思い、帰国後に養鶏を成功させて村の役に立ちたいという強い思いが伝わってくる。外国人研修のあり方に厳しい目が向けられている中、日本語の習得を含む農業研修への真摯な姿勢は、日本各地で頑張る外国人研修生への応援メッセージでもある。全文を紹介する(原文のまま)。

家ぞくと村づくりと志

ラジェンドラ・リジャル



研修に励むリジャルさん

私はラジェンドラ・リジャルともうします。ネパールから養鶏の研修に二年前に来ました。ネパールは世界で一番高いヒマラヤエベレストと平和のしょうちょう仏様が生まれた国でいられていますが今は平和のぎやぐやです。私の村は首都からバスで四時間かかり、四十五分の家があり、村人は農業にいそんしているにも地理的、山と技術的なかなんから収かくが少なく、人口増加に対する衣食住の問題があり、村人が多くしゃきんをかかえ、生活がこんなになっていきます。教育と研修のレベルが低いので、新しい事業を行う事ができていません。村に労働者が大ぜいいても、正しく活用する事ができていません。特に道路、電気、教育とこようなどが必要です。

このようないけいから、京都大学で研究していたドクター・ホームボドル・リジャル(兄)が日本からしえんをえて、次の社会活動しています。

一九九七年から村を研究し、冬にあたかく、夏に涼しい家を作っています。三年あと小学校を作って、子供と年よりの教育、学生のむりよじゅくを行っています。同年にしょうがくきんをせつりつして、村と周辺の優秀できんべんな学生にしょうがくきんをあけています。

私も養鶏の事業を行い兄のよう社会活動を行いたいと思っています。養鶏の事業をえらんだのは、村のきこうとかんきょうにてきし、村人にこようが与えられるためです。



リジャルさんを受け入れた大松代表

しかしながら、ネパールでは養鶏に関する問題が多々あります。例えば多くの鶏が病気で死

ぬ、品質の良い餌がなくなどです。これらの事から養鶏の事を行っても成功する人が少ないです。私は日本に研修に来て、ひよこや卵生む鶏のかんしの方法、病気とちりょうの法、卵と肉の売買このような日本の養鶏の技術を学んでいます。日本で研修をして、村に養鶏の事業を行い村人にこようを与え、かいたい人に研修させ、日本の技術をネパールに広めたいと思っています。

今村から五人同じ研修に来て、二人はネパールで日本語を習っています。村に帰って手に手つなぎながらチームワークを組、努力してごなたから見てますはらしい人々の美しい村と言われるまでがんばりたいです。その時平和に生きる仕組も作りたいたいです。

養鶏の事業を行う事により、村の生活をかいていけると共に、ネパールの養鶏の技術のほってんにこうけんできると思っています。また、この村を「村のはってんモデル」として示したいです。将来、ネパールと日本の文化交流を行い、ネパール人と日本人の友好関係をふかめ、村を日本に広く知らせたいと思っています。

最後に私の将来のゆめは作文を書くきかいをいただいて日本農業法人協会に心からかんしゃいたします。どうぞ、よろしくおねがいいたします。